

令和元年度 さいたま市立三室小学校 自己評価書

1 学校で設定した「令和元年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 組織的、機動的な指導体制を確立し、教職員の能力を伸ばし、児童の豊かな人間性を育む。
- (2) 「生きる力」を育む教育課程の編成、実施及び改善・充実を図り、児童の能力を伸ばす。
- (3) いじめ・不登校ゼロを目指し、積極的かつ繊細な教育相談活動及び生徒指導を展開する。
- (4) 体力向上推進委員会を中心とした体力アップ作戦で児童の体力前年比5%アップを目指す。
- (5) 安心、安全な「学びの場」としての施設、設備、環境の充実と自己防衛力の育成を図る。
- (6) 地域とともに歩み、SSNを更に充実させ地域に開かれた学校を目指す。

2 評価結果について

成果

- (1) 「組織的、機動的な指導体制を確立し、教職員の能力を伸ばし、児童の豊かな人間性を育む」ことに関する18の質問では、教職員の回答は、全体でA67%B33パーセントであり、概ね達成されている。
- (2) 「授業はわかりやすいですか」という問いに対し、97%の児童がほぼ満足している。また、保護者の92%が子どものよさを見つけ伸ばそうと感じている。
- (3) 「思いやりのところを大切にしていますか」という問いに対し、92%の児童が大切にしていると答えている。また、97%の児童が仲のよい友達がいると答えている。保護者の97%も「子どもは、友達と仲良く生活している」と感じている。
- (4) 「体力向上・健康教育・食育等」に関する7つの質問では、教職員の回答は、全体でA58%B41%であり、概ね達成されている。
- (5) 96%の児童は、学校の施設設備を大切に使用していると答えている。保護者も94%が、学校は児童の事故防止に努め施設・設備の安全に配慮していると答えている。
- (6) 92%の保護者が、学校は家庭や地域との連携を適切に行っていると答えている。特に学校公開（校内音楽会等）、授業参観、学校行事については、98%が満足している。

課題

- (1) 「家で進んで勉強や宿題をしていますか」という問いに対し、17%の児童があまりできていないと答えている。進んで学習する習慣を身に付ける必要がある。
- (2) 「気持ちのよいあいさつをしていますか」という問いに対し、16%の児童があまりできていないと答えている。また、保護者の19%もあまりできていないと感じている。家庭と連携し、教育活動のあらゆる場面で継続的に指導をする必要がある。
- (3) 「外遊びで体を思いきり動かしていますか」という問いに対し、22%の児童があまりできていないと答えている。児童の体力は市内平均を上回るものもあるが、男女とも投力が劣っている。今年度同様、鉄棒、投力についての取組を続ける必要がある。
- (4) 「あなたは好き嫌いなく、なんでも食べていますか」という問いに対し、26%の児童があまりできていないと答えている。食の経験の乏しさが要因の1つでも。給食の指導を適切に行い、食育に努める必要がある。
- (5) 1年間に4回の避難訓練で、児童は集団での自己防衛力は高くなってきているが、登下校については、地域からの指摘も多く、今後も組織的な指導を継続していく。
- (6) すべての教職員が、保護者や地域の願いや要望等を適切に把握し、その願いに応えようとしていると答えているが、地域の行事などは週休日や勤務時間外に開催されることが多いため、教職員の理解を得て振替を確実に取得できるように具体的に相談を行って参加させる。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・校内研修を通して組織的な指導体制を発展させ、教職員の指導力を更に磨き、児童の基礎学力の向上と学習習慣の確立が図れるようにしていく。
- ・生徒指導、教育相談、特別支援教育に更に力を入れ、不登校ゼロ、いじめゼロを目指し、充実した学校生活を送れる児童の笑顔があふれる学校にしてく。
- ・コミュニティ・スクールの導入に向けて準備を進めるとともに、地域の学校として、学校行事の積極的な公開、登下校指導、地域の行事への積極的な参加により、益々地域との密接な関係を築き、学校教育を地域とともに進めていく。

令和元年度 さいたま市立三室小学校 学校関係者評価書

さいたま市立三室小学校
学校関係者評価委員長

1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

学校代表4名、学校関係者評価委員10名 計14名

(2) 実施回数

1学期1回、3学期1回

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- ・校長のリーダーシップにより、教職員の意識が向上し、児童の意識も高まっている。教職員の自信にもつながっていると感じる。
- ・学校と地域がうまくいっていないと感じている学校・地域もある中、三室小学校ではよい成果が出ているので、今後もよいモデルとして継続して取り組んでいただきたい。
- ・学校から多くの協力が得られており、感謝している。金管バンド等、多くの関わりがもてている。保健指導等が充実されている。さわやか相談員、SC、SSW等をうまく活用し、連携がとられている。
- ・若い教職員が入ってくる中で、理念に沿った経営をしていくことが難しいと感じているが、三室小では校長のリーダーシップのもと、それができていると感じられる。
- ・教職員のあいさつに対する自己評価が下がっている点が気になる（先生方はよくあいさつしていると感じるので）。
- ・保護者が教育に携わっているという意識が高いが、実感としてはまだまだ連携が図られていないと感じている。見守り等、地域全体を見ていくという意識を今後高めていきたい。
- ・教職員の負担が少なくなるよう育成会の体制を少しずつ変えていき、学校と地域が連携できるようにしていきたい。子どもからのあいさつが非常によくなったと感じている。
- ・アンケート結果「学校が楽しい」「仲の良い友達がいる」に肯定的に答えた児童の割合が高い。嬉しく感じる。家庭学習に対する意識については、中学校としても取り組んでいきたい。中学校では残菜率が高く、完食率が低くなっている。課題に感じている。保護者が子どもに対してさらに関わっていけるように、中学校としても働きかけていきたい。
- ・「かけはし」（学校だより）の中で、4年間での成果が示せると、さらによいのでは。（特に変化が大きいものだけでも）わが子に対しては、家庭学習に課題を感じる。考えていきたい。子どもどうしのトラブルに対して迅速に対応していただいたので、今後もお願いしたい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・来年度以降も、校内研修等を通して組織的な指導体制を発展させ、教職員の指導力を更に磨き、児童の基礎学力の向上と学習習慣の確立が図れるようにしていく。
- ・コミュニティ・スクール導入に向けて、来年度からは、「社会に開かれた教育課程」について研修していく計画である。地域との緊密な連携を深め、地域の方の力を借り、教育力の向上を目指していく。
- ・あいさつについては、教職員も引き続き「よい手本」を示し、登校時や地域の方にもあいさつができる児童を育てていく。
- ・外遊びの奨励、体力アップ作戦等の取組を通して、児童の体力向上を目指していく。
- ・給食指導については、様々な食材に触れる機会をつくり、好き嫌いが少なくなるよう努めていく。
- ・4段階評価のうち、A評価の割合がさらに増えるよう努力していく。AB評価で100%になっていない項目については注視し、その部分について来年度は特に力を入れていく。

さいたま市立三室小学校